一れつ

2023 年ようぼくの集い

去る 11 月 17 日、ようぼくの集いが開催されました。8 月の伝道庁月次祭神殿講話に合わせて開催された、麹町大教会長、久保一元先生による縦の伝道講習会講話を全員で視聴。その後、小グループに分かれ練り合いが行われました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.913

DECEMBER 2023

tenrikyo.com

つらつらせんがく
熟々浅学

― 太陽の光 ―

師走を迎えました。今月 31 日で教祖 140 年祭年祭活動の 1 年目が終わります。そして、新年より教祖 140 年祭年祭活動 2 年目が始まります。

本年一年間、お力添えを賜りまして、誠に有難うございました。

アメリカ伝道庁としては、新年になれば、半年後（6 月 30 日）に創立 90 周年記念祭を迎えることになります。記念祭までの残りの期間、お互いに勇ませ合って管内が一手一つとなり、記念祭を無事に迎えて滞りなくつとめ終えさせていただけるように努めたいと存じます。

来る新年も、本年同様、或いはそれ以上に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、伝道庁では毎日午前 5 時半より神殿掃除を行っています。一番早い朝陽の昇る時刻は午前 5 時 40 分頃ですので、朝の神殿掃除時には太陽はまだ昇っていません。つまり、暗いうちに掃除をすることになりますので、当然ながら殿内の電灯を点けて掃除します。しかし、伝道庁の神殿内の電灯は蛍光灯ではありませんし、電灯の数も多くありませんので、電灯を点けても比較的暗い殿内です。

掃除する際、布巾、モップを使いますが、時折、布巾やモップから糸くずが上段やステージの上に落ちることがあります。しかし、モップの先の「モップ糸」は黄色なので糸くずも当然黄色のため、上段やステージの床板の色と“マッチ”していて、落ちていても気付きにくいのです。また、布巾の糸くずは小さい物が多いので、非常に見えにくいのです。時折、綿埃も床に落ちていることがあるのですが、それに気付かないこともあります。掃除の最中にそのことに気付けばよいのですが、そうでないことが多いのです。

掃除終了後、私は上段下正面のステージ上に正座して、掃除をしてくださっている皆さんと一緒に終わりの礼拝をしますが、その時、上段の床に落ちている糸くずに気付くことがあります。そのような時は礼拝後、糸くずを取りに行きます。座っている時の私の目線の高さからだと糸くずが見えやすいのですが、糸くずの所に行きますと、どこにあるのか分からないことがあります。つまり、上から見下ろすと糸くずを見失うことがあるのです。少し斜め上から、或いは床より少し高い目線から見ないと糸くずが見えないのです。

掃除後の礼拝時には、糸くずが落ちていないかと上段床を端から端まで見渡しますが、それでも気付かない、見えない糸くずが落ちていて、朝づとめ前にその“存在”に気付くことがあります。

伝道庁の神殿はおぢば方向に向いていますが、西北西方向です。ですので、太陽が昇れば夏場は、北側のすりガラスの窓から太陽の光が入ってきます。日の出は朝づとめが始まる前ですので、朝づとめをつとめる頃には太陽が昇って殿内を明るくします。北側の窓を開けると太陽の光が上段を直接照らしてしまうので窓を開けることはしませんが、それでもすりガラスの窓を通る太陽の光で上段とステージが照らされ、その光が強いので、ステージや上段の床で反射した光がお社まで明るく照らすことがあります。

そのような太陽の光で上段とステージが照らされた時、朝の神殿掃除の終了時には見えなかった糸くずや綿埃などが見えるのです。太陽の光の角度、つまり、真上からではなく、まだ地平線に近い位置から太陽の光が発せられるためなのか、その光によって上段やス

テージ上の埃などがくっきりよく見えるのです。掃除後から少し時間が空いていることもありますが、モップ掛けで綺麗に掃除したはずの上段やステージの上の小さな埃が見える時もあるのです。

私はこの光景を見て太陽の光の偉大さを感じるのです。

皆さんも経験していると思いますが、太陽の光がカーテンの隙間から差し込んで、一筋の光が“光線”のようになって室内を照らした時、室内に漂っている埃に気付くことがあります。普段は見えないのに、その“光線”によって室内に舞っている埃が見え、「こんな部屋に居て呼吸をしていても大丈夫かな」と思うことがあります。

太陽の光を親神様のお働き、或いは教えに置き換えた時、いろいろな悟りができます。

私たちは教祖に「八つのほこり」を教えていただき、それを知っていることによって、日々の心の遣い方に気を付けることができます。つまり“「太陽の光」を持っている”、或いは“「太陽の光」で照らすことができる”と言えるのです。もし、「八つのほこり」を教えていただいていなければ心遣いに気を付けることもないでしょうし、いつの間にか「ほこり」が積もり重なり、身上や事情に表れるという現象を知らないで、苦しむことになると思うのです。その上、「悪いんねん」ということも理解できないでしょうし、「いんねん納消」という考えに及ぶこともないと思うのです。「太陽の光」に私たちは照らされることによって、つまり、親神様のお働きや御教えで私たちの心が照らされることによって、「ほこり」に気付くことができるのです。

また、同じ太陽の光であっても、その照らす角度によって見える物、見えない物があると思うのです。

伝道庁の神殿の上段やステージの床が朝の太陽の光によって、つまり、太陽の位置が地平線に近いところから発する光によって埃や糸くずが見えやすくなっていると思うのです。それは、夕陽によって照らされた時、人影が長く大きく見えるように、埃や糸くずの影も床の上に大きく映し出されて見えやすくなっていると思うのです。もし太陽の位置が高ければ、埃や糸くずは見えにくいと思うのです。

また、太陽の光が“光線”のように室内を照らすので室内の埃が舞っていることに気付くように、“光線”のような光でなければ見えない埃があると思うのです。

このようなことを考えた時、どのような角度で「太陽の光」と言える親神様のお働きや教えで照らしてもらうのか、どのような「太陽の光」の“種類”、つまり、どの教えで照らしてもらうのかによって、頂戴する身上や事情の見え方が変わることがあると思うのです。

また、私たちの「太陽の光」の受け止め方によって、悟りが変わってくるのではないでしょうか。つまり、心理状態の違いによって、同じお働きや教えであっても受け止め方が変わってくるのだろうと思うのです。

太陽の光は、世界中、どこでも変わりありません。どこに居ても、同じように照らしています。

それと同様に、「太陽の光」である親神様のお働き、教えも、世界中のどこに居ましても変わりはありません。ただ、先程書きましたように、私たちの心の状態によって、「太陽の光」の受け止め方が変わることがあるのではないでしょうか。また、親神様のさまざまな「太陽の光」によって、見えなかった、或いは見えにくかった事柄が、くっきり、はっきり見えることができるのではないでしょうか。つまり、親神様の教えをしっかり身に付けておけば、さまざまな身上や事情の本質が見えて来るのではないでしょうか。

皆さんは、どのように思われるでしょうか。

深谷　洋

立教186年11月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところから、陽気ぐらしを共に楽しみたいとの思召のまに／＼、この世人間をお造りくだされ、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表に現れて、だめの御教えをお啓きになられました。爾来、御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを頼りに、世界たすけを目指して勤しむ者をお与えいただいておりますが、これも偏に、親神様の御守護と教祖のお導きの賜物と存じます。私共は、日々たすけ一条の道を通らせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の十一月の月次の御祭りを執り行う芽出度い日柄でございますので、只今より、ぢばの理を頂戴し、おつとめ奉仕者一同心を一つにして、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめてさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いました、よふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、ハイブリッド形式にて、当伝道庁のようぼくの集いを無事に開催することができ、誠に有難うございました。管内の教友が繋がり合える機会となりましたが、これからも、よふぼくの使命を自覚して、勇ませ合いながら、この道を広められますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、不安定な世界情勢を鑑みて、親神様が思召くださる陽気ぐらし世界実現への歩みを緩めることなく邁進する大切さを痛感しております今日でございます。また、当伝道庁創立九十周年記念祭まで残り約七ヵ月となりました今日、管内の教友の心を一手一つにして、将来の一里塚となる記念祭に致したいと存じます。何卒、親神様には、至らぬところは幾重にもお仕込みくださり、世界の人々が一れつ兄弟姉妹であることを心に治め、互いに手を取り合って暮らせる世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

11 月月次祭神殿講話

ミッドウエスト教会長
文岡　邦人

ただ今は、庁長先生ご夫妻を芯に、皆様方とともに、立教 186 年アメリカ伝道庁の 11 月の月次祭を陽気につとめさせていただき、誠にありがたい限りでございます。庁長先生よりご命を頂き、神殿講話をつとめさせていただきます。届かぬながらも精一杯お取り次ぎさせていただきたいと思います。しばらくの間、お付き合いいただきますよう、お願い申しあげます。

現在、私たちは、教祖 140 年祭へ向けての三年千日の年祭活動の上に、日々成人の歩みを進めさせていただいております。昨年 10 月に真柱様よりご発布いただいた諭達第四号には「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標（めどう）に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである」とあります。「たすけ一条」とはおたすけのことをまず第一に考える、アンテナを広げておたすけの機会を常に探していること、と私は解釈しております。

しかしながら、この「おたすけ」という言葉に少しハードルの高さを感じている方も少なくはないのではないでしょうか？「おたすけ」イコール「おさづけの取り次ぎ」という観念にとらわれたり、または、「おたすけ」イコール「おさづけの取り次ぎ」イコール「鮮やかなご守護を頂く」、「命をたすけてもらう」、などと考えてしまい、つい怖気づいてしまう事も多いのではないでしょうか？

さて、そのおたすけですが、本年二月の本部巡教において、アメリカ伝道庁会場講師の本部員松田理治（まさはる）先生はそのお話の中で、「『たすけ』と読める漢字は、調べてみると約 30 ほどあることを知りました」とお話しされました。それを聞き、後日実際にインターネットの漢字辞典で調べてみると、動詞や名詞で重複する漢字はあったものの、実に 20 以上の「たすけ」と読む漢字があることを知りました。それぞれの漢字の意味は、松田先生のお話にもありましたが、一般的な「救済」や「手助け」などの意味を持つものから、援助、サポート、支援、補助、貢献、（援助などを）与える、導く、などなど、実に多様な意味合いを持つのであります。それだけ「たすけ」にも様々な形があり、私たちにもできる「おたすけ」は必ずある、と松田先生はお話しくださいました。

その漢字を調べていた時に気づいたことがあります。20 以上あった「たすけ」と読める漢字ですが、中には見たこともない漢字もありました。その中で私の目を引いた漢字が少しありました。

まずは「佑」という漢字です。左側はにんべん、人を指しますね。そして右側は「右」という漢字が当ててあります。つまり「人の右側にいる」ことは「たすけ」であると解釈できると思います。さらに「佐」という漢字もオンライン辞書によると「たすけ」と読むらしいです。偏はにんべん、そして右側には「左」とあります。ということは「人の左側にいる」のも「たすけ」であると解釈できると

思います。
　身上や事情で悩む人々の隣に、そばにいること、つまり寄り添うことは「たすけ」そのものなのだと解釈できると思います。
　さらに衝撃的な発見がありました。「侑」という漢字があり、それも「たすけ」と読む漢字みたいです。「人が有る」、つまり人が存在することも「たすけ」なのだと解釈できましょう。それはたとえおたすけを必要とする方のそばに肉体的に寄り添うことができなくても、おたすけをする人が存在することを知ってもらうことも「たすけ」になるのだと思います。
　それはいったいどういうことなのでしょうか？解釈をさらに広げると、電話やメール、テキスト、などなど、その人とつながる手段は今の世の中、たくさんあります。昔SF映画で見た近未来の姿であったテレビ電話はもうスマホ片手に普通にできます。ですので、たとえ距離が離れていても、スマホを使ってその人とつながることはできます。お年を召した方々でスマホが使いこなせなくても、固定電話があります。さらには手紙、カードなど、離れていてもつながる手段はたくさんあります。パンデミック後、しばらく音信の途絶えた方に連絡を取ってみませんか？それは「おたすけ」の第一歩なのです。
　まずは誰かに連絡を取ってみませんか？気軽におたすけを始めてみましょう。そしてその中でたすけを必要としている人に巡り合ったら、諭達には「身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い」とあります。ですので、その方のためにおつとめをつとめさせていただきましょう。朝夕のおつとめの時にその方のお祈りをさせていただきましょう。お祈りは、いつでもどこでも、誰にでもできます。決して難しいことではないですね。ご自宅で、また、教会に足を運び、おつとめをさせていただきましょう。教会でもお願いつとめをつとめてくださいます。たとえ教会から離れているところにお住まいでも、会長さんに連絡を取ってください。教会でおつとめをつとめさせていただきますから。ぜひ行動に移してみてください。
　さて、お祈りをさせていただく、ということですが、私の経験談を少しお話させていただきます。
　もうコロナ禍になる前の話ですが、職場の同僚のある女性スタッフ、彼女の名前の頭文字をもじってエマさんと、呼ばせていただきます。エマさんとは普段からなにかとやり取りがありましたが、ある日からピンクの帽子をかぶるようになりました。最初は気に留めていなかったのですが、よく見てみると毎日その帽子をかぶっています。胸騒ぎがし、気になったので意を決し、彼女にメールを送りました。「もしかして何か病気を患いましたか？実は自分は天理教という宗教の教会長をしていて、人のために祈ることを仕事としています。もし病気だったらお祈りさせてもらえませんか？」と。
　すると「ありがとう。実は乳がんと診断されたの。もしお祈りをしていただけるなら、ぜひよろしくお願いします」と返信が来ました。
　それから約一年半、その間にコロナ禍になってしまい、自分も在宅勤務となり、ほとんど会話をする機会がなくなってしまいましたが、朝夕のおつとめの時にはその方の身上平癒をお祈りさせていただきました。
　そしてオフィスに戻って程なくしてから彼女にメールをしたところ、「抗がん剤治療も終わって、治療もひと段落し、今は元気にしている、髪の毛もまた生えてきた」との返事が返ってきました。実に嬉しい、ありがたい報告を受けました。
　もうそれは２年近く前の話でしたが、今年になってまだ冬の頃だったと思います、その彼女と同じ課の別の女性、（彼女の名前の頭文字をもじってエラさんと呼ばせていただきます）、そのエラさんと立ち話をしていた時に、「あなたまだミニスターはしてるの？」と話しかけられました。「もちろん！お祈りが必要な時は教えてね」と返事しておきました。おそらく、乳がんだったエマさんが「クニはミニスターで、お祈りをしてくれているの」といった内容の話をしてくださったのではないかと思います。
　お祈りをさせてもらおう、と思い、行動に移したことがおたすけをさせていただいただけでなく、にをいがけにもなったのかな？と

思いました。次のお祈りの機会が、きっかけが、少なくともできたと思います。

さらにもう一つ。私が所属している柔道クラブのあるメンバーに、ケガの続いた指導員がいました。私の教会の地下には柔道場があり、私はその道場に所属しています。道場の総師範の先生は、新規の生徒が入門すると私を「この先生はわが道場の指導員でもありますが、道場の上には天理教という教会があり、その教会の会長を勤めています」と本人やその父兄に紹介してくださいます。そのため、道場のメンバーや父兄は私が天理教の教会長であることをみんな知っています。

その彼が指導員に昇格する前の話ですが、最初のケガは肩のケガでした。その時に「私はご存知の通り上階の教会の会長です。私の教会長としてのつとめは、人のためにお祈りをすることです。なので、ケガが早く、順調に治るように、教会でお祈りさせてもらっていいですか」と声をかけると、「先生、ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします」と返事をもらうことができたので、おつとめの時にお祈りをさせてもらいました。

それが治り元気に稽古を再開してしばらくすると、彼はまた別のケガをしてしまいました。今度は肋骨を骨折しました。その時にも「また『お願いつとめリスト』に戻して、お祈りをさせてもらうね」と声をかけ、朝夕のおつとめの時にお祈りをさせてもらいました。

そんなことが過去にあったのですが、この夏の始めの頃、その彼から、突然テキストが入りました。彼の継母が急性腎不全と急性心不全で緊急搬送され、ICU で治療中とのこと。そして教会でお祈りしてもらいたい、との連絡がありました。すぐにお祈りをさせてもらい、教会のお願いつとめのリストに加えさせていただき、また、個人的にも翌朝の朝つとめから毎朝夕のおつとめの時に身上平癒のお祈りをさせていただきました。

それから数日経って、継母さんの容態はどうなったか気になり連絡しようと思っていたところ、その彼から連絡があり、まだ予断は許されないものの、継母の意識は戻り、人工呼吸器も取り外されるまで回復した、とのことでした。「先生のお祈りが届いているようです。ありがとうございます」と。そしてそれから約 1 週間ほどして彼が稽古に顔を出した時、まず彼は私の元にやってきて「もう安心できるレベルまで回復しました」と嬉しい報告をしてくれました。

これはまず機を逃さずに声かけをさせてもらい、行動に移したことがきっかけとなり、いざという時に「先生の教会なら」と天理教を頼ってくれたことにつながったことと思います。前述の同僚、そしてこの道場の指導員も共に「お祈りが届いた」「お祈りが効いた」ということをお話ししてくれました。

また、前述のエマさんは彼女の同僚のエラさんに「クニはお祈りをしてくれる」と話をしてくれ、自分が話をしなくても彼女が口コミをしてくれました。「天理教」という名前はまだオフィス内でも、道場内でも浸透していないとは思いますが、少なくとも私がお祈りをする、ということは少しずつ広がっていっていると思います。

教祖年祭活動とは普段よりもう少し力を入れて成人への努力を進める時期であります。普段よりもう少しがんばって、声かけをさせていただきましょう。誰かに話を聞いてもらいたい人は私たちの回りにたくさんいると思います。多くの場合は話を聞いてもらうだけでもスッキリします。それも立派なおたすけです。どうか親身にお話を聞かせてもらい、たすかりを、治まりをお祈りさせていただきましょう。それでももし声かけができなくても、ご自宅で、教会で個人的にお祈りをさせていただくことはできます。ぜひ行動に移させていただきましょう。

また 10 年前の教祖 130 年祭に向けて私が大教会で受講した本部巡教では、講師の先生は「その人が『あぁたすかった。ありがとう』と言えば、本人が『たすかった』と言っているのだからそれも立派なおたすけなんです」とお話くださいました。小さな親切からその方が「たすかりました。ありがとうございます」と言ったならばそれはおたすけなんです。何か小さな親切をさせていただきましょう。誰かに電話を、テキスト・メールを送ってみましょう。とりあえず動いてみましょう。親神様・教祖はそれをご覧になっていて、私たちにで

きるおたすけ、私たちにしかできないおたすけをご用意くださるでしょう。そしてその姿をご覧になってお喜びくださると思います。

結果はどうなるか分からない。でもそれは気にしなくていいんです。それは神様の領域。でも私たちが真実込めておつとめをつとめ、お祈りをするならば、諭達第四号には「親神様は真実の心を受け取って、自由の御守護をお見せ下される」とあります。真剣にお祈りをさせてもらえば、神様はお働きくださります。親神様・教祖は私たちが動き出すのをお待ちです。どうか、まずは誰かとつながり、寄り添うところから始めてみましょう。

最近では SNS などで知人がケガをしたとか事故に遭った、などを知ることがあります。それがきっかけでもいいと思います。まずは人様のたすかりを祈ることからでも始めさせていただきましょう。

諭達には「よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め」とあります。真柱様は 2012 年の秋季大祭神殿講話において、教祖の道具衆としての歩み、について「自分中心の心遣いから、人をたすける心に入れ替えてもらいたい」とされ、「人をたすける心を持ち、実践することが、何よりも親神様の思召にかない、自らが真にたすかる道だということでありましょう。わが身わが家のたすかることを願うだけでなく、自らも人だすけを心がけることが大切なのであります」と真柱様は仰せられ、また、それが「親神様が何よりもお喜びくださる行い」とお話しくださいました。

また、過去の諭達を振り返ってみると、諭達第二号には「身上に苦しみ、事情に悩む人のおたすけに真実を尽くすことこそ、よふぼくの何よりの任務（つとめ）である。私達の周りにも、多くのたすけを必要とする人がいる。周囲に心を配り、機を逃さぬ親身のおたすけを心がけたい」とあります。

さらに諭達第三号には「おたすけは周囲に心を配ることから始まる。身上・事情に苦しむ人、悩む人があれば、先ずはその治まりを願い、進んで声を掛け、たすけの手を差し伸べよう」とご教示いただきます。

まずはおたすけのアンテナを張って、周囲に心を配り、機を逃さず進んで声を掛け、たすけの手を差し伸べましょう。その人に寄り添い、おつとめをつとめ、お祈りをさせてもらうところから始めてみましょう。それが「親神様が何よりもお喜びくださる行い」であり、「御存命でお働き下さる教祖にご安心いただき、お喜びいただける」歩みであると思います。教祖年祭へと向かうこの旬に、なにかさせていただきましょう。アンテナを広げて、お祈りの機会を探しましょう。それが知らず知らずのうちに成人へとつながっていくと思います。共々に「御存命でお働き下さる教祖にご安心いただき、お喜びいただける」歩みを進めさせていただきたいと思います。

来年に迎える伝道庁 90 周年に向けて、そして今から約二年ちょっと先に迎える教祖百四十年祭に向けて、まずは第一歩を踏み出し、親神様・教祖にお喜びいただける努力をさせていただきましょう。

最後にもう一度だけ、今日のお話の振り返りをさせていただきます。「たすけ」の定義はたくさんあります。私たちにできるおたすけの形はきっとあるはずです。そして、おたすけはまずお祈りをさせていただくことから始まります。周囲に心を配り、機を逃さず、その治まりを願い、お祈りをさせていただきましょう。祈ることはいつでも、どこでも、誰にでもできることです。私もそこから始めました。まだ最初の一歩を踏み出せていない方は、ぜひここから始めさせていただきましょう。

ご静聴ありがとうございました。

上記 QR コードから伝道庁ウェブサイトにて神殿講話を動画でご覧いただけます。

90th Anniversary

SHARING OUR JOY OF FAITH

Tenrikyo Mission Headquarters
in America

Saturday
JUNE 29

1:30 - 3:30 PM
70th Anniversary Joint Convention
Young Men's and Women's Associations
Attended by Mrs. Harue Nakayama and Mr. Daisuke Nakayama

3:30 - 9:00 PM
Commemorative program and Dinner Reception

Sunday
JUNE 30

10:00 AM
Tenrikyo Mission Headquarters in America
90th Anniversary Commemorative Service

1:30 - 3:00 PM
Reception and Entertainment

For Further Information, visit our website at **tenrikyo.com**
Tenrikyo Mission Headquarters · 2727 East 1st St · Los Angeles, CA · 90033

伝道庁連絡

11月月次祭
祭　主　　庁長
扈　者　　木村昌人　福井陽一
賛　者　　伊藤伊智郎　雪本スティーブン
指図方　　雪本利清
神殿講話　文岡邦人（英）

教会・布教所事情
コロムビア教会：電話番号変更
（503）984-0508（携帯電話）

おやさと練成会事前講習
おやさと練成会事前講習は、12月28日（木）～30日（土）の日程で、伝道庁にて対面式で開催します。

TSA冬季練成会
TSA冬季練成会は12月26日（火）から29日（金）まで、伝道庁にて開催します。
締切は過ぎましたが、開催の数日前まで申込を受け付けています。ただし、追加の＄20（合計＄70）がかかります。
受付は先着順で、35名が上限となります。
尚、参加者は9年生を含む全ての高校生層（14歳でも可）の申し込みが対象と改訂されました。

年末年始行事予定
12月26日（火）の遥拝式後、午後12時30分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方は、また、同日の昼食を希望される方は、11月30日（木）までに伝道庁にご連絡下さい。12月28日（木）は餅つきを行う予定ですので、伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。また、元旦祭は、1月1日（日）午前7時（午前6時40分より開扉・献饌開始）より執り行いますので、祭典役割に当たっておられます方々は遅れないように参集して下さい。

修養科英語クラス
修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、早々に伝道庁にお知らせください。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承ください。

全教一斉ひのきしんデー
来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願いいたします。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12月26日までに伝道庁に提出してください。

ようぼく一斉活動日
各地区責任者は、第2回開催の「計画書」を2024年2月末までに、書記に提出してください。

教会長夫妻おたすけ推進の集い
来年（2024）2月17日（土）午後2時より、教祖140年祭年祭活動2年目にあたり、たすけ一条の歩みを一層進める上から、伝道庁に於いて「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」を開催致します。管内教会長夫妻と庁長が認めた対象者の皆様には、万障繰り合わせの上、出席くださるようお願い致します。尚、対象者には、案内の書面を配布、発送、配信していますので確認してください。

スリーデーコース
スリーデーコースが2024年2月23日～25日の日程で開催します。申込用紙は今月配布し、締め切りは2024年2月18日です。英語コースは4名以上の申込み、スペイン語は2名以上の申込みがある場合に開催します。

一れつ会特別扶育生募集
2024年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切は12月31日です。

祭典役割
現在、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第2日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第2日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっています。そこで、来年（2024年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるように致したいと存じますので、就きましては、祭典参拝の有無について、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、来年（2024年）1月の春季大祭参拝有無に関しては、今月末（2023年12月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

各会連絡

広報委員会
・90周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連

載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上（kamishuyo@hotmail.com）
林（takhayashi@gmail.com）

・祭儀委員会からの要望で、祭典前の祭儀式練習模様の動画を作成中。
・8 月の神殿講話から、伝道庁ホームページで日英両語での視聴ができるようになっています。
・「Stories Inspired by Oyasama」動画（現 5 件）が視聴可能になりました。今後、出来上がり次第追加掲載されます。
・Youtube にて「SoulFire」の記録ビデオが視聴できます。アクセスには右の QR コード、もしくは以下の画像をクリックしてご利用ください。

婦人会

・天理教婦人会第 106 回総会
２０２４年４月１９日（金）
午前 9 時 30 分　於：本部中庭
記念行事：支部の集い

アメリカ婦人会は、2024 年に創立 70 周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく 2023 年、１年をかけて「アメリカ婦人会創立７０周年記念おぢばがえり」を実施致します。
おぢばへお帰りになられた婦人会員は、是非お名前をお知らせください。

・地区責任者の集い
２０２０４年１月２０日（土）午後２時　(Zoom)
・主任と委員部長との懇談会を進めております。

少年会

・鼓笛隊員募集！道の教友と共に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は少年会委員（moto1884@gmail.com）までご連絡ください。
・8 月に開催された縦の伝道講習会の講話のビデオが伝道庁ホームページにアップロードされていますので、ぜひご視聴ください。
・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきましょう。
・教会こども会等で教祖のお話をし、親子ぐるみのひのきしんを実施してください。
・おつとめ着や子供おぢばがえりの T シャツ等、寄付していただける物があればお知らせください。(moto1884@icloud.com)
・少年会ハッピの購入をご希望の方はご連絡ください。郵送可。

青年会

・アメリカ青年会忘年会
12 月 16 日土曜日
・年始に向け、イーストホールの掃除をさせていただきます。
・インターナショナルひのきしん隊は、2024 年 7 月 18 日～ 24 日に開催予定。
・教祖 140 年祭の年の 2026 年 7 月 18 日～ 24 日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

NY センター

・12/17　ホリデーバザー
・12/30　餅つき
・1/12　文化協会新年会

雅楽おとまり会　11 月 19 日～ 20 日

少年会員のメンバーを中心に、来年執り行われる伝道庁創立 90 周年記念祭での余興への出演を目標に掲げ、練習に励んでいます。
乞うご期待！

－信仰の喜びを分かち合おう！私の９０周年記念祭－
そして教祖１４０年祭へ向けて

教会や布教所にお連れし、真実（まこと）の喜びを分かち合う

ハリウッド教会の信者さん、ヤマサキ・ブライアンさん家族（スーザン、ロバート）がハリウッド教会の東側の伸びすぎたブーゲンベリアを毎週土曜日に来て切ってくれています。

日々喜びと感謝の心でひのきしんをしよう！

また、９月 24 日（日）に　The San Diego River Park Foundation 主催のボランティアに、サンディエゴ地区の皆さんがにおいがけ活動として参加しました。
サンディエゴ川河口に生息する在来種の植物保護の為、外来種の除草をしました。13 名の参加がありました。

ヤマサキさんファミリー

サンディエゴ地区の皆さん

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.